

令和7年度 第2回社会教育委員会会議録

日時 令和7年9月16日（火）10時00分から11時30分

場所 市役所5階小会議室

委員	委員長	松尾 弥生
	副委員長	高瀬 由美
	委員	田中 亨胤
	委員	谷勝 公代
	委員	中村 和子
	委員	河合 新一
	委員	石野 晴美
	委員	難波 利克
	委員	橋尾 恵美
事務局	教育長	菅野 恭介
	教育部長	伊藤 勝
	生涯学習課 課長	北島 悦乃
	生涯学習課 課長補佐	増田 浩和
	生涯学習課 職員	藤井 優佳

1. 開会（事務局）

2. 教育長あいさつ（教育長）

～教育長よりあいさつ～

3. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

皆さん、万博には行かれましたか？その国の一番の医療や生命のことなど本当にいろいろなものが出ています。

私は毎朝、銭湯に行くのですが、来られている方は80代の方が多いです。その方たちから話を聞くと、「自分が若い頃、万博で5時間並んで月の石を見たことが今でも忘れられない」と言われていました。本当に一生ものなのだなと思います。そして、その時の学びというのがこれまた生涯学習のひとつだなという風に思っています。

今日は加西市教育振興基本計画について、グループで話し合う時間を設けて、その後、全体でどういう意見が出たかをお話できればと思います。

今日はご協力よろしく願いいたします。

4. 協議事項（事務局）

（1）「第4期加西市教育振興基本計画」について

～事務局より修正点を説明～

～グループごとに意見交換～

- **Aグループからの意見（副委員長、委員D、委員G）**
 - 計画の随所で使われている「ウェルビーイング」という言葉について、なんとなくの意味は一般的に理解されているが、説明を加えてもいいのでは。
 - P. 1 2. 計画の位置づけ …「参酌」という言葉の意味が一般市民には分かりにくいのではないかと。
 - P. 21③体験型学習を通じた青少年育成の充実 …「3C次世代型人材を育成します」という表現が、2ページの計画の基本的な考え方にある表現と同一であるため、より具体的に、あるいは砕けた表記にしてはどうか。
 - P. 22【取組テーマ】生涯学習施設の整備①公民館・オークタウン加西の整備 …「北部公民館の移転整備等を計画的に行います」という記述に関して、北部公民館以外の公民館についてはどうなるのか。
 - 公民館と学校、地域社会との連携について、1カ所しか記載がないため、より積極的に盛り込むべき。
 - 部活動の地域展開について、社会教育側でも受け入れ体制をどのように考えているのかなどが計画に入っているといいのではないかと。
 - （生涯学習の分野ではないですが、）スクールバスの進捗状況について、もし進んでいるのであれば入れてもいいのではないかと。

- **Bグループからの意見（委員A、委員E）**
 - 「人生100年時代をたたく創造的に生きる」というテーマの中の「たたく創造的に」や「ウェルビーイング」というような用語について、別ページでも良いので、その意味や目的を加えるべき。
 - 教育委員会所管以外の体育施設（アラジン球場など）も含め、多様な施設の活動について触れるべき。
 - 「加西GLOBAL」という表現について、「グローバル（グローバルとローカル）」という地域に焦点をあてる視点も必要なのでは。
 - 学校の空き教室を利用した社会教育活動についても検討してみてはどうか。
 - 全体的に取組テーマが③までしかないが、④以降を追加するなど、より多くの要素を加えることが必要なのではないかと。
 - 本計画がコンサルタントを介さずに作成されており、加西市ならではの特色が反映されている点は評価できる。

● Cグループからの意見（委員B、委員F）

- 「ウェルビーイング」の視点について、加西市としてどのような状態をウェルビーイングと捉え、何を目標とするのかを明確にする必要がある。
- 本計画は5年後をイメージしたものであるべきだが、現在の立ち位置から記述されている部分が多い。5年後には価値観が変わっている可能性も考慮すべきではないか。
- 例えば、21ページの国際交流の項目で、「子供だけでなく」とあるが、「あらゆる世代」とすれば十分であり、子供にこだわる必要はないのでは。
- 国際交流のベースとして言語活動を考えているのであれば、5年後には自動翻訳技術の進化により、文化や風習の理解の方がより重要になる可能性がある。
- 図書館の役割についても、5年後には従来の紙媒体の貸し出しだけでなく、ネットや音声コンテンツなど、読書の概念が多様化する可能性がある。
- 総合運動公園などの体育施設も社会教育活動に含めて考えるべきであり、分野横断的な捉え方が必要である。
- 図書館の利用者数や貸出冊数等の数字で評価するのではなく、図書館内でどう過ごしているのかが大切なのではないか。

● Dグループからの意見（委員長、委員C）

- 「ウェルビーイング」という言葉をきちんと分析し、加西市がどのように捉えるかを明記することが必要。
- 虐待を受けている子ども、ヤングケアラー、不登校の子ども、学校に適應できていない子どもなど、そういう子たちがこの計画の対象になっているのか。
- 対象になっているのであれば、福祉など他部署との連携が必要である。あるいは教育委員会のみプランであれば、それを明記すべき。
- 活発に活動している市民がさらにステップアップし、社会に還元する「人材の育成」に関することが不足しているのでは。「リカレント」（学び直し）という言葉を活用することで、この点を強化することやリーダー養成まで包括的に捉えることができるのではないか。
- 生涯学習のテーマである「いつでも、誰でも、どこでも」を言葉にして明記すること。
- P.20【取組テーマ】生涯学習×加西BASE①生涯学習機会の充実 …「節目」よりも「ステージ」という言葉を使う方が適切である。
- P.1「実施状況の評価」について、その評価が非常に重要である。評価基準を明確にして、単なる活動報告に終わらず、目標への進捗を測れるようにすべきである。

(教育長)

- 「ウェルビーイング」など用語の捉え方について
加西市としてウェルビーイングをどのように捉え、何を目標とするのかを明確にすることは必要だと思っているので修正していきたい。
また、計画内で使用されている専門用語や分かりにくい表現については、その意味を別ページなどで説明を加え、一つ一つの言葉を精査していく必要がある。
- 計画の範囲について
計画の範囲を広げすぎると收拾がつかなくなる可能性がある。
連携は重要であるが、多様な活動を全て評価対象とするとアクションの部分でコントロールが難しくなる懸念があるため、教育委員会内でコントロール可能な部分で進めたい。
- 評価の考え方について
数字を追い求める評価は本質を見失う恐れがある。そのため、単に結果を数値化するだけでなく、具体的な取り組みや努力、頑張りを評価に含め、アクションに対する評価を重視したいと考えている。
ただし、この評価の具体的な方法については、現時点ではまだ十分に確立しておらず、今後検討していく。
- 意見の反映について
本日いただいた意見については、次回の第3回策定審議会に持って行き、審議を行いたい。

5. 閉会（副委員長）

皆様、今日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。

十分な意見を出していただけたでしょうか。小人数だと意見が言いやすいのではないかということで、今日はこのような形にさせていただきました。まだまだ言いたいことがございましたら、事務局に電話やメール等で送っていただけたらと思います。社会教育委員の会議はこの人数ですので、思ったことをその場で気兼ねなく発言をしていただけたらいいなと思います。

今日はたくさんの意見をいただきまして本当にありがとうございました。